

オオタバコガ・ハスモンヨトウの誘殺数が増加しています！

オオタバコガ及びハスモンヨトウは、各種の野菜類・花き類に大きな被害をもたらすチョウ目害虫です。

当センターのフェロモントラップを利用した誘殺数調査の結果、9月末～10月はじめにかけて、両種の誘殺数の急増が確認されました。ハスモンヨトウは県内調査地点5地点中2地点で、オオタバコガは調査地点5地点中2地点でそれぞれ多くなっています。現在発生している成虫が各種農作物に産卵し、今後、幼虫の食害が増加する恐れがあります。ほ場をこまめに観察し、以下を参考に対策を取りましょう。

【特徴と防除対策】**共通**

- ・ 幼虫は成長とともに薬剤が効きにくくなり、食害量も増加するため、早期発見・早期防除を心掛けましょう。特に露地の葉菜類では、定期的防除が有効です。
- ・ 施設作物では、防虫ネットを設置して侵入を防ぐことが有効です。また、黄色・緑色灯も成虫の侵入と活動を抑制し、被害を減らす効果があります。
- ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。
- ・ 11月中は野外で活動が続くため、被害の発生に注意しましょう。また、施設作物では施設内で冬越しさせないように、12月までにしっかり防除しましょう。
- ・ 交尾かく乱剤は、一ほ場だけ処理しても、外部から交尾した雌が飛来してしまうため、十分な防除効果が得られません。必ず、産地で連携して広範囲に設置しましょう。

(1) オオタバコガ

- ・ 1卵ずつ産卵するため、卵での発見は困難です。幼虫は、花や果実、頂芽を好んで加害するため、よく観察して被害が拡大する前に防除しましょう。
- ・ 果菜類では果実内部に、結球する葉菜類では結球内部に食入するため薬剤がかかりにくくなります。食入前の早期防除を徹底するとともに、薬剤防除にあたっては、プレバソンプロアブル5、アニキ乳剤など浸透移行性の高い薬剤を活用しましょう。

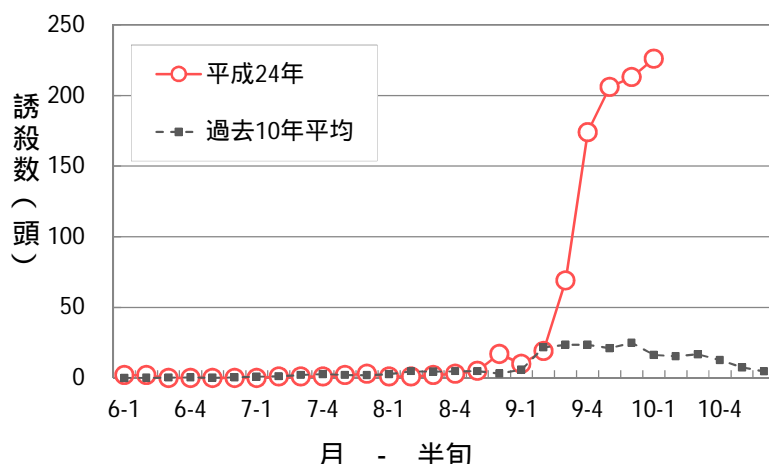


図1 オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数（真岡市）



写真1 なす果実に食入しているオオタバコガ幼虫

(2) ハスモンヨトウ

- ・ 卵は卵塊として産みつけられ、幼虫は孵化後もしばらく集団で食害します。卵塊や幼虫が分散する前に、被害部ごと摘み取り処分しましょう。

- ・幼虫は背面に対をなす黒色の小斑点があり、葉や果実・花など作物の各部を激しく食害します。キャベツ等の結球する葉菜類では、結球内部への食入も見られます。

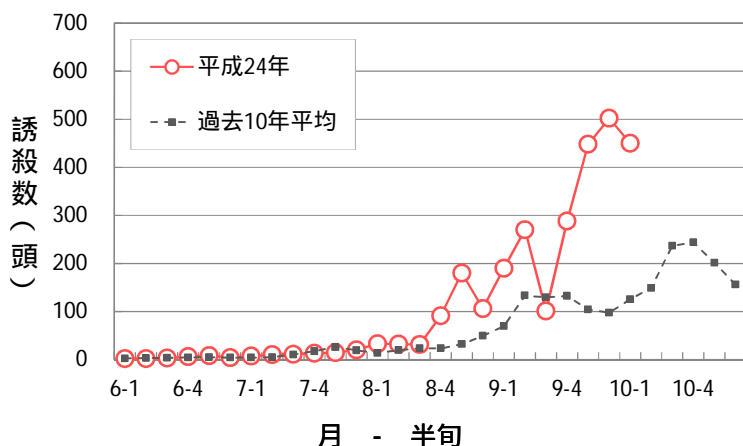


写真2 キャベツに食入したハスモンヨトウ幼虫

図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数 (宇都宮市)

【備考】

- ・いちごやトマト等の施設作物で、みつばち、マルハナバチや天敵類を利用する場合、それらに影響の小さい薬剤を選定しましょう。

表1 野菜類・花き類のオオタバコガ・ハスモンヨトウに対する主な薬剤の登録状況 (平成24年10月9日現在)

薬剤名	いちご	トマト	なす	キャベツ	はくさい	レタス	きく	花き類・観葉植物
マクロライド系								
アフーム乳剤					-		-	
アニキ乳剤								-
ピロール系								
コテツフロアブル					-			-
スピノシン系								
スピノエース顆粒水和剤	-			-	-			-
ディアナSC					-		-	
オキサジアジン系								
トルネードエースDF					-			-
その他								
プレオフロアブル							-	
フェニックス顆粒水和剤								
プレバソンフロアブル5								-

* : オオタバコガ・ハスモンヨトウともに登録有、 : オオタバコガのみに登録有、 : ハスモンヨトウのみに登録有

詳しくは、農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問合せ下さい。
また、当センター携帯サイト (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用下さい。

(0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6)